

Title	ナチスの擡頭及びその経済政策の社会経済的基礎
Sub Title	
Author	加田, 哲二
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1935
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.29, No.5 (1935. 5) ,p.639(29)- 686(76)
JaLC DOI	10.14991/001.19350501-0029
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19350501-0029

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ナチスの擡頭及びその經濟政策の 社會經濟的基礎

加 田 哲 二

現在のドイツが國際政局の上において、最も注意を要する國家の一つであることは、何人も否定しないところであらう。一九三三年一月末におけるヒットラーの政權把握以來、その内治外政ともに、世界の人々の注目するところである。ナチス政權の把握によつて、國內的には、自由主義的・民主主義的・社會主義的諸勢力との掃蕩的鬭争に従事し、對外的には、専らヴェルサイユ條約の改訂または破棄に努力したのである。平和條約による戰爭賠償金問題に關しては、故シュトレーゼマン外相以來折衝が續けられ、ドウス案・ヤング案が採用されたが、一九三二年六月のパーベン内閣時代のローザンヌ會議は賠償問題を實質的に解消するに至つた。而して、殘る問題は、ヴェルサイユ條約によつて、聯合諸國のために奪はれ、國際聯盟によつて、諸國に委任統治地とせられた舊ドイツ植民地。

舊ドイツ領であつて、國際聯盟の直轄統治地・舊ドイツ領にして、フランス・ベルギー・デンマーク・ポーランド・チェコスロヴァキアに分割せられた諸地方の接收問題・並にドイツに對して加へられた軍備制限問題がある。これらの内、ザール地方歸屬問題は、一九三五年一月十五日の人民投票によつて、ドイツ領として解決せられ、ダンテツヒと自由市の歸屬人民投票の結果は、ナチス政權の敗北に歸した。(一九三五年四月) ナチス政權は、これらの問題の解決が、國家の實力保持・即ち軍備の充實にあることを認識してゐる。而して、軍備充實の公然たる實行はヴェルサイユ條約第五篇のドイツ軍備制限に關する條項の撤廢を前提とする。ドイツは、ナチス政權以前においても、秘密裡に、各種軍備の充實を行つてゐたことは、各國の認めるところであり、ナチス政權は、軍備費を倍加することによつて、その歩を進め來つたのである。(Hitler rearms An Exposure of Germany's War Plans Edited by Dorothy Woodman 1934)

かくの如く、ヒットラー獨裁の確立以來、ドイツ再軍備の傾向は、一層著しいものがあるので、歐洲諸國においても、かくの如き状態を座視するに忍びず、英・佛兩國は、ヴェルサイユ條約によるドイツ軍備制限を現代の實狀に即せしめる目的をもつて、會談を開催するに決定した。英・佛兩國の主腦者は、三月一日から三日に涉り、ロンドンに會談し、次の如き所謂ロンドン協定なるものに到達した。

- 一 オーストリア獨立保全に關するローマ協定に基く協議には英國も參加する。
- 二 ローマ協定をも包含する軍備制限協定及び一般歐洲安全保障機構にドイツが參加すべきこと。

三 ヴェルサイユ條約第五篇軍事條項は新に締結さるべき軍備制限條約によつて代位される。

四 右と同時に、ドイツは國際聯盟に復歸するものとする。

五 英・佛・獨・伊・白の五國間に空中相互援助條約を結ぶ。(加盟國の何れかの一が他の一國を空襲したるときは、他の三ヶ國の空軍は一致して挑戰國を攻撃すること)

この英・佛ロンドン條約に對して、關係國は何れも、贊同的態度であつた。ドイツもかくの如き協定が望ましいものであるといふ回答を發したのであつて、ヴェルサイユ條約第五篇軍事條項の改訂は、合法的に可能であるかの如く思はれた。しかるに、三月七日英首相マルクドナルドは、各國の軍備・殊にドイツの再軍備工作が國際平和の障害であり、英國の軍備擴張をも必要にするに至つたことを述べた。更らに三月十二日、フランス内閣は、その閣議の結果、大戰當時の出生數減少に起因する壯丁數減少を理由として、從來の一ヶ年在營年限を二ヶ年に延長するに決し、同國下院三月十六日これを可決した。

これに對して、ドイツは、急速且つ公然に軍備擴張の手段に出づるに至つた。即ち三月十六日午後、宣傳相ゲッペルスはドイツ國總統並首相アドルフ・ヒットラーの名において、ヴェルサイユ條約軍事條項の一方的廢棄及びドイツ再軍備を宣言するに至つた。

「世界大戰の結果、ドイツ政府は完全な武装解除を受けた。しかもドイツ政府は、忠實にこの義務を履行した。大戰直後政府は、幾多の艦艇軍器を相ついで破壊した。しかるに、戰勝諸國政府は聊かもヴェルサイユ條約の規定

を履行せず、軍備擴張に狂奔し、ドイツ政府は高度の軍備諸國の眞只中に全く無防備な状態に陥つた。ドイツ政府は軍備縮小の實現を期して、一般國際軍縮會議に諸般の具體案を提出した。さらに不可侵條約の締結を提案し、事實上東方の隣邦と右條約を締結したのであるが、英佛兩國をはじめ各國政府は各自國の役割を果さず、歐洲の諸困難打開を期するドイツ政府の提案を支持せず、その結果ドイツ政府は國際聯盟を脱退するの止むなきに至つた。その他各國政府が全然ドイツ政府の提案を容れなかつた事實に徴しても、ドイツ政府は他の締約國政府が、ヴェルサイユ條約の諸條項を履行する意圖なきものとの結論に達せざるを得なかつた。すでに締結各國政府が履行の意志のない以上、ヴェルサイユ條約は事實上最早存在せず、ドイツ政府は自身の責任において自國の無防備状態を終息せしむるために必要な手段を講ずるの止むなきに至つた。……」

これが、ドイツの所謂爆彈宣言の主要な部分である。而して、この爆彈宣言は、要するに事實の再確認または再主張に過ぎぬものであるが、ヨーロッパの政局は、この宣言を中心として再び動搖するに至つた。最近のスピレーザ會議並に國際聯盟理事會へのフランスのドイツ條約違反の訴への如きは、要するに、このドイツの事實の進展に對して、如何なる方策をヨーロッパ列強として講ずべきかといふ點にその主眼が存してゐる。

これらのドイツ・ヒットラー獨裁政權の政策及びヨーロッパ列國の外交的動きは、單なる政治家・外交家の意欲であるか。筆者はさう考へないものである。政治家・外交家の意欲は、ある一小部分について、一國の政策を左右する。しかし本質的部分においては、一層本質的なものがあつて、政治家・外交家の意欲を決定するのである。

故に、一國の政治または國際外交についての以上の如き叙述は、單なる現象の表面を觀察してゐるものに過ぎぬ。それは、現象の本質的説明ではない。

ドイツは、ヴェルサイユ條約の廢棄を主張してゐる。これは、ドイツ・ファシズム年來の主張である。その主張の根底は何處にあるか。而してその主張者ナチスが何故に政權把握に至り、何故に、現在の如き政策を實行しつゝあるかの根本的説明は、單なる現象の表面的記述をもつて、足れりとしなない。そこには何等かの根本的研究がなければならぬ。しかるに、ドイツに關して、刊行せらるゝ内外の文献には、勿論この點に關する基本的説明がなされるものもあるが、多くは、旅行記的・印象記的記述に過ぎぬ。而して、ドイツ内部において刊行せらるゝ文献は、ナチス政權下の嚴重な檢閲制度と異端的態度の嚴罰とによつて、その全部がナチス獨裁禮讚のものである。元よりナチスに禮讚すべきものがあるならば、これを禮讚することは、何等妨げないことである。しかしながら嚴密な社會科學的批判は、單に禮讚であつてはならぬ。現象の基礎に關する批判的研究でなければならぬ。

筆者の知る限りにおいては、かくの如き文献は、甚だ稀である。しかるに、いま筆者の讀むことを得たフリッツ・シュテルンベルヒの「政權を握れるファシズム」(Fritz Sternberg, Der Faschismus an der Macht. Amsterdam 1935)は、その稀れなる文献の一に屬するやうに考へられる。シュテルンベルヒは、既に帝國主義の研究家として名ある人であつて、これに關して、次の如き著述がある。

Der Imperialismus. Berlin 1926

ナチスの擡頭及びその經濟政策の社會經濟的基礎

Imperialismus und seine Kritiker Berlin 1929

Der Niedergang des deutschen Kapitalismus. Berlin 1932

第一の著述は六〇〇頁に上る大冊であつて、この方面における大著たることは、廣く認めらるゝところであり、第二は、前著に關する諸家との論争を収録したものである。第三の「ドイツ資本主義の没落」は、戦前の上向的資本主義から戦後の没落資本主義の過程をドイツについて、分析解剖したもので、ドイツ・ファシズム運動の經濟的根據を最も明確に記述したものと云ふべきもので、刊行當時ドイツ讀書界の紙價を高めたものである。著者シュテルンベルヒは、恐らくその政治的立場のために、ナチス政權把握以來、故國に止まることなく、ブラーグに在住してゐることは、その新著の序文によつて明かであり、その著述の立場がドイツ國內での刊行を不可能ならしめたためか、アムステルダムの書店によつて刊行されてゐる。

「政權を握れるファシズム」は、ドイツにおいて、何故にナチスが擡頭し、遂に政權把握に到達したか。政權を握れるナチスは何を爲したか。而して、それらの經濟的基礎は何處にあり、且つナチスをして、政權に到達せしめたドイツ政治界の政策的誤謬は何處にあつたか。ナチス政權の政策は、ドイツに内在する社會的經濟的對立を解決したか。これらの問題に對するドイツ資本主義の分析解剖による解答である。著者の考へによれば、ナチスは獨占資本の代辯者であり、ナチスをして政權に到達せしめたものは、同國の經濟状態であるとともに、ドイツ社會民主黨並にドイツ共產黨の政策的失敗であるとするのである。殊にドイツ共產黨が、社會民主黨を社會ファシズムと

貶稱することによつて、對ファシズム協同戦線の形成に失敗した點を強調してゐる。而して、ナチス政權獲得後の政策は、所謂全體主義といふ名目の下に、獨占資本の政策を強化してゐるのであつて、ドイツ没落資本主義に内在する内部的社會的對立を何等解決するものでなく、反つてそれを強化してゐると見、これらの問題を實證的に説明しやうとするのである。その立場は、マルクスのものであるが、ドイツ共產黨に對しては、假借なき批判的態度で臨んでゐる。この點は、公式的マルクシストとその撰を異にする。筆者は、その見解の全部に對して賛成するものではないが、その巧妙なドイツ資本主義の分析解剖に對しては、唯一とはいはないが、最も稀れなるものゝ一つであると思ふ。以下その大要を記することによつて、ドイツ政治並に經濟の大勢の理解に對する一助にもなれば甚だ幸せと考へる次第である。

二

現在の世界資本主義は、最も多難な恐慌に見舞はれてをり、ドイツ資本主義は高度資本主義國家内において、最も脆弱な部分である。しかも、資本は集中せられ、無産者は窮乏化した状態にある高度資本主義の最大恐慌期において、無産者階級は、資本主義に對する致命的闘争に勝利を得ることなく、反つて反動たるファシズムが政權に到達するに至つたのは、如何なる理由によるのであるか。フリッツ・シュテルンベルヒは、「政權を握れるファシズム」において、この問題に答へやうとするものである。彼は、資本家的生産における資本の獨占的集中・勞働階級の窮乏化・收奪者の收奪なる理論の信奉者で、この資本主義崩壞論の疑ふべからざるを主張するものである。而

して、彼は、その立場において、現代におけるファシズムの政權把握なる現實的事實に直面し、これを分析説明せんとするものである。シュテルンベルヒに従へば、高度資本主義における反動としてのファシズムの成立を説明すべき要因は二つである。その一は主觀的要因であつて、ドイツ資本主義の没落的危機に際して、プロレタリアートの鬭争者であつた二大政黨—S.P.DとK.P.D—の戰術的誤謬であり、その二は、客觀的要因としてのドイツ經濟狀態である。

客觀的要因としての經濟狀態は、高度資本主義の衰退である。生産・外國貿易・賃銀・従業労働者數の減少衰退は、從來の恐慌時における數倍であり、都市及び地方における中間階級の窮乏化は著しいものがある。戦後の没落資本主義におけるドイツの地位は最も顯著なものであつて、恐慌の深さは、遙かに英・佛を凌ぎ、北米合衆國のそれと同程度である。しかしながら、アメリカの生産は、一九二九年の世界恐慌以前に巨大な發展を爲してゐる。これに反して、ドイツ資本主義は、戦後その影響を清算するに數年を必要としたし、その好況時代においても、アメリカ資本主義・従つてまた世界資本主義の發展に遠く及ばなかつたのである。ドイツ資本主義の發展を觀察すると、第十九世紀の六十年代から世界大戰にいたるまでは、世界資本主義と平行して、生産の上向的發展があつた。しかるに、戦後のドイツ資本主義は、世界資本主義が戦前の水準を既に越へてゐるにも拘らず、戦前生産の水準に達してゐない。

生産の減退に照應するものは、失業者數である。ドイツ資本主義の好況時代においても、失業者數は數百萬に上つたのであるが、恐慌時代においては、生産過程における合理化とともに、驚くべき數に上ることは、斷言し得る。而して、ドイツ資本主義の合理化は英・佛のそれに比して、一層徹底的であるので、失業者數も、これに照應すること勿論である。いま労働組合の統計によつて、その失業組合員の割合を示せば次の如くである。

年 次	ドイツ		英 國	
	完全失業 労働組合員における百分比	半失業(時間減少) 労働組合員における百分比	労働保險加入 者失業百分比	
一九三〇年(十二月平均)	二二・四	一六・九	一六・〇	
一九三一年	三六・二	二二・三	二一・三	
一九三二年	四六・八	二四・二	二二・一	

この數字は、ドイツの失業者數がイギリスの二倍以上であることを示してゐる。フランスの失業がイギリスのそれに遠く及ばぬことはいふまでもない。一九三二年の冬においては、ドイツの労働組合員の四分一強が従業してゐるに過ぎない。かくの如き産業豫備軍の擴大とともに、賃銀切り下げが行はれた。一九三二年の秋においては、一九二九年における賃銀額の六〇%を受けたに過ぎぬ。而して、官廳生計費指數によれば、一九二九年における一五・八が、一九三一年九月には一三四に減退した。即ち一三%の減退である。しかるに賃銀は、四〇%の減退である。この状態において、ブリュウニング内閣の緊急令によつて、物價引下げ五%、賃銀引下げ一〇乃至二〇%が行はれ、賃銀は更らに減少され、失業並に従業時間の短縮が増大した。かくて、従業労働者の賃銀は、ブリュウニングの緊

急令以後一九二五年の水準に至つた。

加之、失業者給與金が減額された。失業者は、先づ失業保険によつて、給與せられ、その額も最高であつた。第二は、恐慌給與金(Krisenunterstützung)であり、第三は、公益給與金(Whohlfartsunterstützung)があり、遂に無給與にいたるのである。いま、失業者に給與別百分比を挙げれば、次の如くである。

年 次	失業保險	恐慌給與	公益給與金受領者及び無給與者
一九二九年一月	八一・〇	五・〇	一四・〇
一九三〇年一月	六九・〇	八・〇	二三・〇
一九三一年一月	五二・〇	一七・〇	三一・〇
一九三二年一月	三一・二	二六・四	四二・四

この數字の示すところは、最高額給與金受領者は益々減少し、更らに、給與金そのもの、總額も減少せられつゝあることである。パーベン内閣減額以前の給與金總額は、二十五億マルクであり、八百萬の失業者があつたのであるから、失業者一年平均受領額三〇〇マルク、一週六マルクの小額給與を意味する。

ドイツ資本主義は、その内部において、かくの如き恐慌の危機に遭遇したのであるが、尚ほ國際資本市場においては、米・英・佛の競争に對立しなければならなかつた。戦前のドイツ資本主義は、債權資本主義國であつて、二百五十億マルクの資本を外國に投資し、運賃収入は増加しつゝあつたので、著しい輸入超過があつたにも拘らず、新資本を外國に投ずることが出来た。しかるに、ドイツ資本主義は、戦時並にその直接・間接の結果として對外債權

の大部分を喪失し、インフラチオンの清算から恐慌にいたるまでに、賠償金支拂並に生産用具改善のために、巨大なる債務を負ふに至り、私的債務のみでも、恐慌の最初において、ドイツ自體の對外債權を遙かに越してゐたのである。かくの如き恐慌の深化が利潤を減少せしめることはいふまでもない。これに對するブルジョアジーの對策は賃銀減額のみならず、ドイツ中間階級の生活標準に對する低下政策となつて、現はれるに至つた。

三

高度資本主義における階級構成の單純化を主張し、少數巨大資本家に對する窮乏多數工業プロレタリアート・大地所有者に對する農業労働者の巨大群を對立せしめる單純な見方があるが、それは現實社會の實相ではない。資本主義没落期における社會的ピラミッドは、著しく、複雑である。農業社會におけるピラミッドは、大地所有者對農業労働者の對立でなくして、大地所有者・大農業經營者・中農經營者・貧農及び農業労働者の併存對立である。都市においても、甚だ複雑である。強度の經營集中に對して、同様の所有集中が行はれるのではない。従つて、都市的ピラミッドは單なる資本家對労働者の對立ではなく、資本家・都市中間階級(小商業者・手工業者・官吏・勤人・自由職業)・労働者の對立である。中間階級中、小商業者及び手工業者を舊中間階級とし、勤人及び官吏等を新中間階級とし、地方においては、農民を中間階級中に數へれば、工業化の行き亘つてゐるドイツにおいても、尚ほ人口の二割を數へることが出来る。この割合は、一八八二年・一八九五年・一九〇七年・一九二五年の調査において、變化がない。ドイツ労働者數は、過去數十年に絶對的に巨大な増大をなした。しかし一八七五年以來相對的には、少し

く減少してゐる。獨立營業者の数は、著しく減退し、勤人層は、労働者階級の増加割合と同じテンポで増大してゐる。これらの中間階級諸層の社会的慣習は、甚だ雑多であるが、恐慌時においては、同一性を持つてゐる。その生活状態の顕著な悪化がそれだ。

この場合、都市と地方とが別々に觀察されることが必要である。ドイツ資本主義は、英・米と異つて、世界経済恐慌以前に、一〇〇%のインフラチオンを持つた。このインフラチオンは都市の中間階級からその全財産を奪つた。しかるに英・米の中間階級は、少くとも恐慌までその財産を保有することが出来た。農民は、インフラチオンによつて、その負債を解消し、その土地を保持することが出来た。かくインフラチオンは都市中間階級に對して、その財産を奪ふと同時に、その利潤率の減少によつて、小商工業者は、その所得の上から、プロレタリア化されたのである。労働者階級における窮乏化と、この中間階級の窮乏化とは、ともに、第五階級、即ち永久無所得者を生むに至つた。かくの如き傾向は、獨立中間階級における財産本能を更らに強化し、その僅少なる財産に固執して、永久無所得者たる境遇を打開する道を阻止したのである。即ち中間階級的産業豫備軍を形成するに至つた。恐慌時においては、單に労働者階級の失業者が増加するのみではなく、中間階級の失業者数をも増加した。この失業は二つの形態を採る。その一は、仕事場・店舗・農場を捨てるに至る状態にあるものと、その二は中間階級内部において、職業の過剰を來たしたことである。

新中間階級のプロレタリア化過程は、舊中間階級のそれよりも進んでゐる。新中間階級は、嘗てその状態は甚だ良好であつた。商業人口の増加と、工業過程の形態の變化とは、その労働市場における地位を高めてゐたのである。即ち一九〇七年から二五年に至るまで、工業及び手工業従事者数は、二九%を増加した。一九二五年においては、工業従業者の四分の一以上が商業及び交通部門に従事してゐた。生産の經營機關は益々増大した。労働組合の計算によれば、一九〇七年—一九二五年の工業事務員数は一三五%を増加したに拘らず、労働者は、三四%を増加したに過ぎぬ。國際労働局の計算によれば、戦前ドイツにおいては労働者一〇〇に對して、事務員八の割合であつたが、戦後(一九二五年)においては、事務員一五に増加してゐる。この傾向は、國際的であるが、戦後の不況とともに、停止するに至つた。而して、工業上における合理化は單に生産過程におけるそれに止まらず、經營事務上にも及ぼされるに至り、事務員のプロレタリア化が實現するに至つた。これは二つの方面からである。第一、事務員の給料は最早有資格労働者と同等または、それ以下に低下したと、第二、事務員もまた労働者と同じく失業に脅かされるに至つたことである。かくて、ドイツ資本主義の恐慌時代においては、戦前恐慌における一般失業者よりも多数の事務員失業者が発生するに至り、その所得は既に労働者よりも多額ではなく、その據り處とする財産は既にインフラチオンによつて、喪失してゐる。事務員層は完全にプロレタリア化せられた。

四

都市中間階級のプロレタリア化は、ドイツ戦後の資本主義においては、繼續的過程において行はれた。インフラチオンにおいては、急激な下向カーブをもつて、インフラチオンと世界経済恐慌との間の時代においては、二應の

安定化を、恐慌時代においては、再び急激な下向カーブをもつてプロレタリア化が行はれた。地方においては、この發展の過程は少しく異つてゐる。勿論地方的中間階級、即ち農民の急激な窮乏化といふ終極の結果においては同一ではあるが、戦前二三十年においては、ドイツ農民の生活上の變化は僅少であつた。工業機構の變革・即ち資本の集中獨占化に對して、地方における變化は甚だ少かつた。農民狀態の衰退は、手工業者の衰退と同一に論ずることとは出来ぬ。小農は減退してゐるが、中農は増加し、大土地所有及び大農は多少の減少を示してゐる。戦前數年間における地方の階級構成は、大約一八八〇年代のそれと同じである。たゞ農業のドイツ資本主義における比重は、この二三十年間において、減少してゐる。何となれば、人口増加はすべて、商工業に入つてゐるからである。

ドイツの農業生産は、その發展において、世界農業生産に遅れてゐた。そして、その經營は、僅かに保護關稅によつて、維持せられてゐた。保護關稅の負擔は都市の大衆負擔となるのであるが、初期帝國主義時代の都市生活標準は高まりつゝあつたので、それに耐えることが出来、且つこの保護關稅は大土地所有者並に、農家に利益を與へた。戰爭は、農業生産機構を破壊したが、インフラチオンが、都市中間階級の財産を收奪したとは、反對に、大土地所有者並に農家には作用した。彼等は、インフラチオンのために、その負債の大部分を償還し、農産物の昂騰によつて、それ以上に利潤を獲得し、土地の回收・家畜の増加を計ることが出来た。しかるに、インフラチオンの解消から世界經濟恐慌にいたる時期においては、既に農家の狀態は悪化してゐる。當時の好景氣は、没落資本主義の景氣であつて、農家は既にこれに關りがないのである。戦前における農業の利子負擔は七五〇—八〇〇百萬マルク

であつたが、一九三〇—三一年度においては、既に九〇〇百萬マルクに達してゐる。世界經濟恐慌期においては、通貨收縮とともに、利子の昂騰となり、利拂のための新信用の設定となつた。同時に、農産物價格の下落は農家に痛手を負はしめたのである。

世界經濟恐慌以前の全農産物價格は、約一三〇億マルク（自己消費を差引く）に達した。この内譯は、次の如くである。

穀物生産(自己消費を除く)	四九・〇億	マルク
畜産物	八三・〇億	同
内		
食 用 家 畜	四五・三億	同
牛 乳	三四・〇億	同
玉 子	三・〇億	同

全農産物價格の三分一は穀物であり、三分の二は、家畜である。しからば、これらの農産物販賣と經營の大小とは如何なる關係にあるか。小農(五—二〇ヘクタールの經營)においては、食用家畜の販賣は、その全價格の七〇%に達し、中農(二〇—五〇ヘクタール)においては、三分の二に止まる。小農における穀物生産は、四分一強であり、中農においては、三分の一強である。而して、大農・大土地所有に至るに従つて、食用家畜の販賣は減少して、穀物生産の比重が加はつて来る。

世界經濟恐慌におけるドイツ關稅政策は、大土地所有のための政策、即ち穀物生産保護の政策である。このために、關稅は著しく高められた。

生産物	百疋につきライヒス・マルクの關稅率		指 數	
	一九二八年	一九三三年	一九二八年	一九三三年
裸 麥	一九〇六	一九二八	一九二八	一九三一
小 麥	五〇〇	五〇〇	一〇〇	五〇一五
醸造用大麥	五・五〇	五〇〇	〇・九一	二五〇〇
飼料用大麥	四〇〇	五〇〇	一・二五	二〇〇〇
燕 麥	一・三〇	二〇〇	一・五四	一八〇〇
穀物關稅	五〇〇	五〇〇	一〇〇	一六〇〇
農産物卸賣價格指數	一九一三年=一〇〇			
年 次	穀物食料品	飼 料	家 畜	家畜生産物
一九二九年(月次平均)	一二六・三	一二五・九	一二六・六	一四二・一
一九三〇年	一一五・三	九三・二	一二二・四	一二一・七
一九三一年	一一九・三	一〇一・九	八三・〇	一〇八・四
一九三二年四月	一二二・四	九九・七	六四・二	九〇・三

この指數によれば、保護關稅によつて、利益を受くるものは、穀物を賣る大農であり、不利益を蒙るものは、家畜及び家畜生産物を賣る小農である。故に、恐慌時において、小農は益々恐慌の進行とともに、窮乏化過程を辿るより外に道はない。獨占資本は、この小農の窮乏化の危険を見、そして、インフラチオンの清算から世界經濟恐慌にいたるまで、殆んど重要視せられなかつたナチス運動を支持するに至つた。しからば、恐慌において、ナチス擡頭の要因は何であるか。

五

恐慌時におけるナチス擡頭の分析において、ナチス・イデオロギーの普及とその運動の背後にある現實の歴史的勢力を嚴密に區別する必要がある。このことは、ドイツ賠償問題を論ずるについて、特に重要である。ドイツ社會主義界においても、ドイツはヴェルサイユ條約によつて、奴隸化せられ、ドイツ労働者階級は、内外兩資本によつて搾取せられること、ナチス思想の普及傳播は、この事實によるとする見解が行はれてゐるが、これは偽購的議論である。

インフラチオンの解消後、一九二四年に二度選挙が行はれた。一九二四年五月の選挙に、ナチスは、九一八、〇〇〇票の投票を獲得したが、同年十二月の選挙には、九〇八、〇〇〇票を得たに過ぎぬ。ナチスの支持者は當時、

最小であつて、インフラチオンから世界經濟恐慌までの間、その最小數を維持したに過ぎぬ。一九二八年五月の選挙には、ナチスは八一〇、〇〇〇票を得たに過ぎぬ。ナチスの擡頭に對して、賠償問題が客觀的に重要ならば、ナチスは賠償の最も問題となつたこの時期に、最大の發展をなさねばならぬ筈である。賠償問題がドイツ資本主義に對して、最重なる問題となるためには、賠償が事實支拂はれてゐることを要する。しかるに、ドイツの賠償はドゥズ案採用以來單に紙の上で支拂はれたに過ぎない。賠償支拂は、ドゥズ案以後においては、外國資本のドイツ流入によつて、紙上において、支拂はれたに過ぎぬ。最初の五年間において、七九、七〇〇萬マルクが賠償として支拂はれた。その期間において、外國に對する債務は次の如く増加してゐる。

國際資本流動におけるドイツ 單位十億

種 類	一九二四	一九二五	一九二六	一九二七	一九二八	一九二九
ドイツ短期債務	一一三・三二	一一三・三一	一一三・三一	一一三・三一	一一三・三一	一一三・三一
外國債務	—	—	四・一	六・六	九・〇	一一・三
ドイツ長期債務	一・〇	二・五	四・一	五・四	七・〇	七・三
ドイツにおける其他の外國投資	—	—	三・五	四・五	五・五	六・〇
ドイツにおける外國の全投資額	—	—	一一・七	一六・五	二一・五	二四・五
ドイツ短期投資	—	—	三・六	三・九	四・五	五・〇
ドイツ長期投資	—	—	四・〇	四・〇	四・〇	四・〇
外國投資の總額	—	—	七・六	七・九	八・五	九・〇

一九二四—一九二九年の期間において、ドイツ資本主義は、約二百五十億マルクの外國債務を有し、ドイツは、百億マルクを外國に投資してゐるので、差引百五十億マルクの資金を外國から借りてゐる。この百五十億マルクの資金をもつて、賠償を支拂ふとともに、貿易勘定の支拂超過を埋め合せてゐる。かくて、ドイツ資本主義は單に紙の上で賠償金を支拂つたに過ぎない。これがインフラチオンから世界經濟恐慌にいたるまでの状態である。しかるに、恐慌に入つて、始めて、ドイツ資本主義は、新債務の設定よりも多額を外國に支拂はねばならなくなつたのである。こゝに至つて、外國資本家は、ドイツ資本主義の發展の可能性に對して懷疑的となり、新資本を提供せざるのみか、既に投資した一部をも引き上げるに至つた。しかし、ドゥズ案からヤング案・フウバア・モラトリウムにいたるまでの間は、賠償金勘定と外國借入資本に對する利子の支拂額よりも、外國資本の流入が大であつた。フウバア・モラトリウムはドイツ資本主義を、賠償支拂問題を紙の上で解放した。しかし、このことは、ナチスをして、「ヤングの鐵鎖」「植民地ドイツ」の言辭を用ひしめる妨げとはならなかつた。かゝる言辭は實際的には、何等重要な意味を持つてゐない。しかし、ドイツ獨占資本は、ドイツ状態の悪化をヤング案の責任に歸することが出来るからである。労働者階級及び中間階級の狀態悪化をヤング案に歸することを得れば、獨占資本は、國內の對立激化に對して、外國勢力に對抗する必要を理由として、平和政策を要求することが出来るのである。ナチスが、客觀的には、獨占資本の利益代表者として、すべての事態をヤング案に押し付けてしまうことは明かである。ナチスは、大

衆をヤング案によつて獲得しやうとした。ドイツの二大労働者政黨S・P・DとK・P・Dとの思想的貧困は寧ろこれを援助したやうである。S・P・DとK・P・Dはともに、賠償問題の重壓を叫んだ。しかしながら、賠償問題は、世界經濟恐慌の原因ではない。賠償及び戦債の負擔者も、その債權者ともに、恐慌に見舞はれてゐる事實は、これを立證するものである。ヤング案によつて、ドイツ資本主義が國際資本主義における地位を低下したことは事實であるが、革命的労働者階級が、資本家とともに、このヤング案を克服すべきではなくして、この際を利用して、資本主義に一撃を加ふべきであつた。ドイツ労働者階級の代表者は、かくの如き主張をなさなかつたのである。

改良主義が、かくの如き行動に出てなかつたことは、驚くに足りない。改良主義はこの點において、完全に市民化されてゐる。それは安定期において、シュトレイゼマン式の市民的賠償實行政策を採用した。而して、恐慌においては、益々明白に國民主義的となつた。K・P・Dにおいても、事態は同じである。こゝでも、ナチスを克服するのに、國民社會主義的言辭を部分的に採用すればよいと考へられてゐた。故に、彼等の機關紙において「ヤング案奴隸制」「植民地ドイツ」といふやうな言辭が用ゐられた。一九三〇—三一年の冬、ベルリンのカール・リウブクネヒト・ハウスには「ソウエート・ロシアに失業者なし、ヤング案下のドイツは四百萬の失業者あり」といふビラが掲げられてゐた。彼等は國民解放闘争が社會的解放闘争に先き立つべきことを主張したのである。

ヤング案の負擔は、ファッショ運動擡頭の根源的根據ではない。それは、ナチスが、その宣傳において、前景に押し進めた諸要因の一であるに過ぎない。而して、深い原因は他にある。ナチスは恐慌の産物である。ドイツにお

けるファッシズムの進展は經濟狀態の悪化と完全に一致して進んでゐる。しからば、何故に、ドイツ労働者階級は、この恐慌において、前進しなかつたか。これに答へることが次の課題でなければならぬ。

六

こゝに、中間階級が問題となる。中間階級はファッシズム運動の大衆的基礎を形成する。しからば如何なる勢力が、この方向に作用したのであるか。中間階級は、生産過程における小生産者としての地位によつて、それ自體の政治を行ふことは不可能である。中間階級は、獨立して、歴史を進展せしめたことがない。それは常にブルジョアジーか、プロレタリアートの曳綱にたよつてゐる。没落資本主義において、利潤が益々低下するとブルジョアジーは被搾取者の全戦線に間隙を生ぜしめねばならぬ。恐慌時においては、中間階級の狀態は、労働者階級のそれと同様な状態を示すのであつて、このときに當つて、中間階級が労働者階級との共同戦線によつて、獨占資本に對する戦端を開始するものとすれば、獨占資本の運命は、實に風前の燈である。しかるに、このことは實現されなかつた。中間階級は、この共同戦線において闘争する代りに、労働者階級に對する闘争としてのファッショ陣營に到つたのである。こゝに、労働者政黨の誤謬があつた。S・P・Dに對して、K・P・Dは社會ファッシズムなりとして、それとの共同戦線を拒絶した。S・P・Dは多くの點において、既にブルジョア化されてゐたのであるが、労働組合の統制を通じて、尙ほドイツ労働者の大部分を指揮してゐたのである。K・P・Dは、このS・P・Dの實力を洞察する力もなく、そのブルジョア化的方面のみを見て、これを社會ファッシズムとして、そのナチスに對する共同戦線

を自ら放棄した。こゝに、S・P・Dのブルジョア官僚的幹部の失敗とK・P・Dの小兒病的失敗がある。

中間階級の大軍を反革命の陣營に走らしめた客觀的要因は、從來中間階級が労働者政黨の側に立たなかつた事實である。戦前においては、中間階級は、その階級の狀態に照應して、市民的政黨の代表者を選出した。戦後においても、この狀態は變化してゐない。ホーヘンツォレルン王家没落の後における國民議會への選舉において、社會主義政黨は、投票數の四五・五%（社會民主黨三七・九%、獨立社會黨七・六%）を得たに過ぎない。労働者階級の一部分は、當時並にその後においても、中央黨及び民主黨を選舉した。ドイツ全人口の約五〇%を占める労働者階級の大部分は社會主義政黨を選舉したのであるが、その他は、問題なく社會主義的ではない。他の階級に對しては、社會主義は殆んど吸引力を持つてゐないのである。即ち、爾餘の諸階級は資本主義維持の立場にあつた。

恐慌時において、中間階級の狀態が悪化することは既に述べたが、この狀態のプロレタリア化の過程に對して、中間階級が如何にして、反革命的態度を取るに至つたかの問題は未だ残つてゐる。この問題を論ずるに當つては、中間階級の個々の層について論じなければならぬが、その個々の差異に拘らず、一致してゐる點は、中間階級のプロレタリア化が比較的最近の出來事であるといふことである。戦前の中間階級においては、いまだこの過程を見ることは出來ぬ。而して、このプロレタリア化の過程は、中間階級の心理的傳統に背いてゐることである。彼等は、この過程に對して、非プロレタリア化といふ心持をもつて、對するに至つた。恰度初期の労働者が機械破壊をもつて、機械に對したのと同じである。而して、ナチスの課題は、この中間階級の憧憬・理想を體系化し、その直接の

解決を約束することによつて、老獪にも中間階級を組織するにあつた。

中間階級の大部分が市民的政黨の支持者であることは既にいつた。勤人層に對しては、このことは統計的に立證することが出来る。労働者階級においては、その約八割までが、自由労働組合に加入し、従つて、社會主義團體を支持し、その全體の五分一弱が市民的團體に加入してゐる。しかるに勤人層においては、關係はその逆である。二七%強が自由労働組合に加入し、三分の二が市民的團體に加入してゐる。従つて、資本主義維持のイデオロギーから解放されてゐない。こゝに、ナチスのイデオロギーが供給された。身分制國家の思想である。勤人層の狀態を惡化せしめたものは、「マルクスの國家」の失敗であつて、それは労働者と經營事務家との區別を撤廢しやうとする。しかるに、ナチスは、身分制國家によつて、彼等に特殊身分を與へ、その誇を保たしめやうと主張する。勤人層のよき夢の實現を約束することによつて、彼等をその陣營に誘ふのである。しかも、恐慌の經驗はいまだ短きに過ぎ、中間階級の頭腦を變改せしめないし、現實を直視して、そのプロレタリア化に直面するよりも、その夢を樂しむ方が心理的には樂である。而して、この夢の實現の可能性を、ナチスはドイツの對外的解放の後に、約束する。帝國主義的・國民主義的意識は、勤人層のイデオロギーに一致する。かくて、その國民主義は一層強調せらるゝのである。

都市中間階級としての小商工業者も没落資本主義におけるプロレタリア化を認識しやうとしない。小商業者は、均一商店・百貨店・消費組合の強力な競争に遭遇する。而して、小工業にあつては、大經營の競争を痛感する。他方

彼等は租税並に、社會的負擔の加重に壓迫を感じる。この傾向は、恐慌の深化とともに激しさを加へる。これらの壓迫が没落資本主義の合理化過程による重壓であることを、彼等は意識しない。彼等はたゞ百貨店・均一商店・消費組合の競争を排撃し、租税軽減の一要因としての社會政策的費用の節減を要求する。而して、これらの點において、ナチスの思想は彼等にとつて、一の慰安である。かくて、都市中間階級もまたナチスの陣營に誘はれて行く。

これと同様のことは、農民についてもいひ得る。恐慌以前においては、農民の經濟的破局については、注意せらるゝところが殆んどなかつた。恐慌とともに、農産物の價格が下降するも、農民は、農産物價格安定策を要求した。彼等の求めるところは、穀物關稅の制定であり、投下資本に對する利子引下げである。利子引下げに關しては、ナチスは、利子奴隸制打破をもつて、宣傳した。利子奴隸制の打破、即ち貸付資本の打倒は、それが資本體系の一を形成してゐるのであるから、全資本主義機構の變革によつてのみ、その排除は可能であるにも拘らず、ナチスは、單に貸付資本からの解放を主張した。小生産者としての農民は、その經濟的苦境において、僅かにこゝにその夢を見出したのである。穀價引上げの農業政策は、大土地所有者を利益し、都市労働大衆の購買力の低下を意味し、結局においては、中小農家の不利益に到達するのであるが、彼等は尙ほ、この政策を要求する。彼等はこの政策によつて、所期の利益を擧げることが得ないので、尙ほ更らに土地獲得に努力する。而して、その土地生産物の價格昂騰政策を要求する。これに對して、ナチスはアウタルキー論をもつて、生活資料の自給自足を主張し、農民の利益を増進するかの如き主張をなすのであるが、それが單に大土地所有の利益増進政策であることは、既に述べた如くである。

かくて、ナチスはその大衆的基礎として、勤人層・獨立都市中間階級・農民を有するのであるが、運動の組織者としては、知識的・中間階級及び就中舊軍人及び土地貴族的反動分子を有する。ヴェルサイユ條約は、先づドイツに對して大規模の軍縮を實行せしめた。しかるにドイツにおいては、戦前封建的軍事的傳統を有する巨大な軍隊を有してゐたし、戦時中將校團の著しい擴張があつた。従つて、敗戦のドイツにおいては、聯合諸國におけるよりは著しい軍縮が要求せられた。これらの將校は恩給を給せられて退職したのである。従つて、いまや、従前の將校から成る巨大な金利衣食者群が発生し、ナチスの陣營を豊富ならしめる要素となつてゐた。ナチスは、彼等が帝政ドイツにおいて、生活してゐたイデオロギーを採り入れて、彼等を獲得した。國民主義・血・人種・土地・反國際主義・反マルクス主義・反ユダヤ主義・反平和主義の如きが、これである。かくて、ナチスは、従前の軍人層によつて、その運動の組織形態が與へられ、知識階級の一部分が、そのイデオロギーを供給した。

知識階級は、中間階級の一であるが、一般中間階級のプロレタリア化の過程は、同じく知識階級にも作用した。インフラチオンにおいて、彼等はその財産を喪失するとともに、彼等の所得も漸次減少するに至つた。しかるに、知識階級數においては反つて増加してゐる。戦前におけるドイツ大學の學生數は七萬であつたが、戦後においては約その二倍に達してゐる。故に没落資本主義下における彼等の地位は勤人層のそれと同じである。産業豫備軍の法則はこゝにも行はれてゐる。かくの如く、知識階級のプロレタリア化過程が激甚であれば、あるほどその心理的過

程として、知識階級とプロレタリアートとの差異が強調せられる。恰度國際資本主義の作用が民族の特殊性を減少せしめつゝあるときに、民族的特質が強調せらるゝと同様である。かくの如く窮乏過程にある知識階級は、その意識の當然の結果としてナチス陣營に包含せらるゝに至るのである。

かくて、中間階級は、その客觀的狀態と、これの心理的反對作用の結果として、ナチス陣營に誘はれ、ナチス陣營を強力ならしめたのであるが、ナチス陣營を相對的に強力ならしめた要因として、労働者階級における共同一致の缺如があつた。既に記したやうに、S.P.DとK.P.Dとの對立・相互排斥はドイツ労働者階級の政治的鬭争力を弱め、ファシズム陣營を強力ならしめた。而して、ドイツ經濟恐慌の加重は、獨占資本主義をして、この壓迫から脱れしめる政治的要因としてのナチスを利用せしむるに至つたのである。ブリュウニング、パーベン、シュライヒャアの諸内閣は、その獨裁的政權をもつてするも、ドイツの經濟恐慌を克服することは出来なかつた。かくてより一層強力な獨裁的權力を有すべきナチス内閣がヒットラーとパーベンとフリーゲンベルクの聯立内閣によつて、成立した。一九三三年一月三十一日のことである。この内閣の最初の課題は、ドイツ資本主義の内部的對立の要因である共產主義的・社會民主主義的・自由主義的諸勢力の掃蕩にあつて、數ヶ月をもつて、その業を終へた。次に來るものは、聯立内閣の弱點を克服することであつた。フリーゲンベルクの鐵兜團以下のナチスの友黨さへも、解散を命ぜられて、その獨裁的權力を増加した。かくの如き獨裁的ヒットラー内閣は果してよくドイツ資本主義における危機的恐慌を克服したか。そのための政策は如何なる意味を有するものであるか。これが以下の問題として説明されねばならぬ。

七

ナチス政權把握後の第一の任務は、反資本主義政黨並にナチスに好意を持つてゐない政黨團體の打倒である。即ちK.P.Dの打倒を第一とし、更らに、S.P.Dに及び、中央黨の如きも、その例に漏れなかつた。加之、ドイツ國權黨の如きも、ナチスに改組せられるに至つた。かくの如き敵黨の打倒は流血の慘事をさへ伴つて行はれた。それは、イタリー・ファシスト黨の反對黨掃蕩政策よりも苛酷に行はれた。それはドイツ資本主義は、イタリーのそれよりも、高度であり、従つて、その社會的政治的對立が激化してゐたからである。ドイツ獨占資本は、既にブリュウニング内閣によつて、緊急令による獨裁を行つて來た。しかも、それは尙ほ議會政治の形態を一部分維持して來た。獨裁の程度は可成に進展したのであるが、尙ほ幾分の自由性を残して置いた。政黨においても、思想においてもさうであつた。しかるに、ヒットラーの把權は一切の自由性を否定した。政黨においては勿論であり、思想においても、學校・ラヂオ・劇場等においても、すべての非國民社會主義的なものは否定せらるゝに至つた。

従來の政治的變革において、交代せらるゝものは單に政治の上層部分に過ぎなかつた。資本主義的對立の激化は、反動的政治改組を、その下部にまで及ぼすのである。一切の國家機構の關係者は、従來のものが排されて、ナチス關係者をもつて補はれた。ナチスと國家機構との同一化である。全國家機構の獨占化である。それは、次の如き三つの特徴を有する。

一 階級闘争の對陣において、ファシズムは先づその敵對陣營の首脳部を掃滅し、更らにその全組織を破滅せしめ、その一切の合法性を迫奪する。

二 かくて、一切の状態の報道に關する機關を獨占する。小學校から大學にいたるまでの思想獨占・新聞からラヂオ・映畫にいたるまでの思想報道機關の獨占を實現する。

三 従つて、政治機關の完全な獨占と、その完全な權力の實現が行はれ、その數をも増加する。

かくの如く、一切の國家機構を獨占したナチスは、社會問題を解決し得たか。ナチスは、この問題を一部分解決した。即ちナチス關係者に對してその生活が有利となつたのである。一九三三年三月五日の選挙に當つて、ナチスに投票したものは一千七百萬であるが、ナチス政權把握以前の關係者は、S A及びS Sが四十萬乃至六十萬であり、NSDAPの組織黨員は約百六十萬に達してゐた。この約二百萬人に對しては、ナチス政權は有利な取扱を行つた。これらの人々に對しては、國防軍・警察・補助警察・新設黑色國防軍・その他すべての行政機關・労働組合・協同組合・疾病保險・新聞その他の思想關係機關に優先的に就職し得たし、労働局にあつては、社會主義的労働者を解雇して、ナチス労働者を雇備せしめるやうな政策が採用された。故にナチス關係者の生活問題は全體において解決せられたのである。

ナチスは、これ以上の社會問題を解決する意圖を持つてゐないものである。それは、國民社會主義における社會主義の閑却であり、國民主義の強調である。フーゲンベルクの失脚にいたるまで、世人は彼を急進的なS Aに對する防禦者として見てゐた。しかるに、フーゲンベルクの失脚後、即ちすべての市民的政黨及び團體の解消後ナチスは「革命の終焉」と「進化」(Evolution)の時期の來つたことを宣言した。一九三三年六月ベルリンにおけるヒットラーの演説はよくこのことを表現するものである。彼はこの演説の中で、政治的權力は急激に克服奪取することを必要とするが、經濟問題については、他の進化法則が存し、一歩一歩前進して、破壊的變革を試みることなく、人々の生活の基礎を揺り動かしてはならぬこと、而して、經濟的改造は、官僚的には行はれ得ない、この場合個人の能力を最もよく利用することが、ドイツ國民の幸福である旨を語つた。これに對して、フォン・クルップ——軍需品工場主・資産二億五千萬マルク——は、これを激稱し、「個人の責任は維持されねばならぬ。これこそ、吾々の願望であり、目的である」といつた。かくて、革命は終り、第二の革命についてのあらゆる言辭は刑罰を伴ふことゝなつた。かくて、ドイツ獨占資本主義は、その安全を確保したのであるが、更らにその直接の保證を求め、「一般經濟委員會」がドイツ獨占資本の立役者を委員として組織せらるゝに至つた。かくて、フーゲンベルクの後任としては、前共同保險會社社長シュミットの就任となり、彼もまたヒットラー同様の演説をもつて、その原則を明確にした。理論的にも、このことは行はれた。ナチス二十五條の綱領の註釋者ゴットフリート・フェダアは、「トラスト經營の社會化」を一九三三年七月の演説において放棄した。同じ七月に、農相ダーレは、土地改良・土地所有制限問題に關する改革案放棄を聲明した。しかし、ナチスは、獨占資本主義の維持政策を採るものではあるが、從來のままの利潤獲得を續けしめるのではない。それは、資本主義に對して、一の新方法を加へるものである。次にこの點

についての説明に入る。

八

ファシズム治下における資本主義の一特徴は、資本主義に對する國家干渉である。ファシズムは國家として、經濟に干渉する。これは一のファシズムの特徴ではあるが、ファシシヨ的傾向の存するところには、何處でもこの干渉の傾向を見ることが出来る。合衆國のルーズベルト治下のN.R.A政策の如きはその顯著なる現はれであり、ヒットラー政権への道程であつたブリュウニング内閣の緊急令もまた同様の傾向を有するものである。この傾向における顯著な現象は、財政権力の經濟への加重である。租税を通じ、失業保險給與を通じて、國民所得に對して、直接の國家統制が加へられる。保護關稅の設定によつて、即ち諸種の生産物價格が政治的方策によつて、昂騰せしめられ、生産者の所得はそのため一定の統制を受けるに至るのである。尙ほ既に述べたやうに、ブリュウニング内閣の緊急令は、賃銀の一律低下をさへ命令した。かくの如きは、すべてファシシヨ的政策といふべきである。

ナチス政権治下においては、この傾向は更らに押し進められた。租税により國民所得の統制は更らに減少してゐないし、農業保護關稅の強化によつて、農産物價格に對する統制は強大化し、補助金も更らに増加したのである。而して、全勞働組織の破壊によつて、賃銀に對する統制力は増加した。更らに、ナチス政権下における經濟政策の特徴は、二つの方面に現はれてゐる。軍需工業と公共事業これである。

ブリュウニング内閣治下においては、間接または直接の國家經營の範圍は、戦前におけるよりも甚だ大ではなかつた。しかるにヒットラーに對しては、事情は全くそれと異なるのである。ナチス政権は、單に現存の軍隊に對する軍需品工業を統制するのみではなく、正に編成されやうとしてゐる大軍備のための軍需品工業をも統制する。ナチス政権は、全公共勞働振興政策を統制する。而して、ナチス政権把握以來の生産の全擴大は、たゞ國家干渉によつてのみ可能であつた。國家は、直接及び間接の軍事生産によつて、生産の擴大を可能ならしめたのである。

この干渉は一時的のものではない。資本家的生産の自動性は、恐慌から逃れる途を作るためには既に無力である。而して、ファシシズムは、恐慌克服のために、數十億の經費をもつて、生産形成に干渉してゐるので、かくの如き國家行動の停止は、資本主義全體の状態を一層悪化せしめるからである。戦時においても、生産に對する強力な國家干渉は行はれた。それは、資本主義組織を維持しつゝ、生産の範圍・數量を決定した。しかし、當時においては、戰爭の終了は、國家干渉の終了であることは、自明のことであつた。今日の事態は、これと異なる。國家干渉の一層擴大せらるゝことは、現下のドイツ資本主義の要求である。それは單に軍需品工業と勞働振興政策に限定せらるゝことは出来ない。國際資本市場におけるドイツの窮境・外國貿易の不振は、爲替市場に對する強力な干渉・輸入制限原料及び代用品の生産獎勵のための國家干渉を強要し、遂には、貿易國營にまで到るであらう。

かくの如く、ファシシスト的國家干渉は、益々増大する。故に、ファシシズムは、資本主義の増大しつゝある矛盾の政治的表現であるといふことが出来る。しかし、ファシシズムは、この矛盾は解消せしめることは出来ない。ファシシズムは、一の全體國家として、強力な組織であるから、議會的民主的國よりも、一の資本家層の犠牲にお

いて、全体の資本主義機構を維持することが出来る。加之、ファッシズムは、反資本主義運動の一切の要素を打破してゐるので、その點において、全機構としての強さを持つてゐる。窮極においては、資本主義的矛盾の増大によつて、自らを維持し得ないとしても、現下の場合においては、資本主義的矛盾を増大させながらも、これを維持しつゝある點を注意しなければならぬ。

九

ヒットラー政権治下における経済状態を記述する以前に、ブリュウニング内閣崩壊以後、パーペン、シュライヒャア内閣治下における状態の概要を知ることが要する。世界経済恐慌の發端である一九二九年から、ブリュウニング内閣の崩壊・即ち一九三二年七月にいたるまでのドイツ資本主義は、世界資本主義の没落過程と同様急激な下向状態に置かれた。この下向状態の故に、ブリュウニング内閣の緊急令をもつてするも、尙ほ彼は辭職しなければならなかつたのである。しかるに、一九三二年七月パーペン内閣が成立し、更らにその晩秋シュライヒャア内閣の成立、翌一九三三年一月三十一日におけるヒットラー内閣の成立にいたるまでのドイツの経済状態は、一九二九年十月から一九三二年七月にいたるまでの急激な下向状態が、底をついたかの觀があり、パーペン・シュライヒャア治下においては、恐慌の深淵における相対的安定を保つてゐたのである。この意味において、ヒットラー内閣の出現を單なる経済状態の一層の悪化に求めるものがありとすれば、それは誤謬である。たゞこの恐慌の深淵における相対的安定の時期に、独占資本の正面の敵であるK.P.Dはその勢力を徐々に増加して來た。勿論ナチスもこの間、こ

れまでのドイツ政黨としての最大多数黨の地位を占めることが出來た。かく一方においてはK.P.Dの勢力の漸増と底をついた経済恐慌に對する社會的將軍シュライヒャアの社會的對立に對する妥協的態度とが、ナチスをして政權を獲得せしめたのである。

ナチスの把權も、國際資本市場におけるドイツ資本の地位を如何ともすることが出來なかつたのであるが、生産方面においては、生産の上向と失業者の減少といふ二つの事實において、ドイツ資本主義の状態を變更してゐる。いま生産指數を示せば、次の如くである。

年 月	生 産 指 數	全 部 門	生 産 財	消 費 財
一九三〇年月次平均		九〇・一	八八・七	九二・三
一九三一年 同		七三・六	六五・四	八五・七
一九三二年 同		六一・二	五〇・二	七七・七
一九三三年 同		六八・九	五八・五	八四・六
同 一月		六二・九	五三・一	七七・六
同 四月		六五・九	五四・九	八二・三
同 七月		七一・〇	五九・二	八八・七
同 十月		七一・二	六二・六	八四・一
同 十二月		七四・五	六六・一	八七・〇

ナチスの権頭及びその経済政策の社会経済的基礎

ナチスの擡頭及びその經濟政策の社會經濟的基礎

一九三四年	一月	七月・八	六二
三月	八四・〇	七七・七	八七・八
四月	八六・二	七三・六	九三・七
五月	八九・一	八〇・〇	九五・五
六月	八八・三	八四・三	九六・三
七月	八九・八	八一・〇	九九・二
八月	八六・六	八三・三	九九・六
		八三・一	九一・九

この期間において、世界資本主義における生産も上昇してゐる。數字を示せば次の如くである。

世界における生産	大ブリテン	佛蘭西	合衆國
一九二八年一〇〇	一九二四年一〇〇	一九一三年一〇〇	一九二二—二五年一〇〇
七三・三	八八・〇	七六・〇	五七・九
一九三三年月次平均	八二・二	八四・九	六九・三
一九三三年 同	八九・三	八三・七	七〇・三
一九三四年一月	九三・〇	八一・四	七六・六
四月	一〇三・三		

即ちこの時期における生産の上昇は一の國際的現象であつて、獨りナチス獨裁下のみの現象でないことは注意を要する。しからば、かくの如き生産の上昇を、ファッシスト・ドイツ資本主義は如何にして可能ならしめたか。従

來の恐慌、即ち資本主義上向期における恐慌は、資本主義的矛盾の表現であると同時に、資本主義生産における週期的自動調整である。一方においては、過剰生産によつて、他方においては、利潤率の低下によつて自動的修正が行はれる。この場合、生産力の發展に伴はない生産施設は、取り残され、最近最良の設備が活動して、内外市場の回復を待つのである。

しかるに、今日の恐慌は、没落資本主義における恐慌であつて、以上の如き前提を具備してゐないのである。資本主義は既に自動的調整の能力を失つてゐる。ファッシズム治下における資本の収益性の増進は單に、賃銀切下げによる生産費の低下だけが可能である。事實ヒットラー治下においてファッシスト的資本主義は、プリウ・ウ・ニングII シュライヒャアの治下におけるよりも、多くの不拂労働者を生産過程に使用することが出来た。しかし、それは問題の一つを解決したに過ぎぬ。最大の問題は、擴大せられた生産物を誰が買ふかといふことである。世界資本主義ではない。輸出は減退してゐる。故にドイツの生産品は、國內に市場を持たねばならぬ。しかるに、著しい賃銀の切下げは、労働者及び勤人の大衆的購買力の増進を意味するものでない。故にそれは、人爲的に増進された國家の購買力による外はない。それは直接及び間接の軍備擴張並に公共的労働振興政策に現はれてゐる。かくて、ドイツ・ファッシヨ的資本主義は、企業家に對して利益あるやうに生産を形成すると同時にその販路を組織する任務を持つてゐる。現在のドイツの生産は、數百萬の新軍隊のために軍需品を生産するのである。ヒットラー政權は十萬の國防軍の代りに、より大なる軍隊を要求してゐる。一九三三・三四・三五年におけるドイツの軍備は、三十萬の武裝

ナチスの擡頭及びその經濟政策の社會經濟的基礎

六四 (六七四)

を目的としてゐる。このことは、全生産上昇の幾部分かの説明にはなるが、その全體を説明するものではない。一九三三・三四年における生産の上昇は來るべき數百萬の軍隊のための設備を意味する。それは同時に來るべき戦争への準備である。一九三三・三四年の戦争生産は、過去に對して三對一の割合であることは、このことを明かにする。ドイツ財政における軍事費の増加は明瞭にこのことを示してゐる。(單位百萬マルク)

	一九三三年	一九三四年	増加
國防軍	四八五	六五八	一七三
海軍	一八六	二二六	五〇
空軍	七五	二一〇	一三五
S	—	二五〇	二五〇
A	—	二五〇	二五〇
合計	七四六	一三五四	六〇八

軍事費は、全國家經費六、四八百萬マルク(一九三四年)の六分の一以上を占めてゐて、一九三三年の約倍額である。これは、豫算面のみで計算であるが、同時に勞働振興政策を行つてゐるが、その大部分は、直接軍備に役立つものである。自動車並に自動車道路の築造がこれだ。勞働振興政策は、全國に亘つて、自動車道路を建設してゐる。これは私用自動車道路ではなくして、現代的軍隊の迅速な行動のために必要であるから、軍事的施設に見るべきものであり、従つて軍事費中に數へらるべきものである。一九三三年度における全生産の上昇は三十億マルクであるが、ライヒス・バンクのみで、この期間に、勞働振興政策資金現在高に五億マルクを増加し、大銀行におい

て、約十億マルクの支出と計算してよろしい。更らに一九三四年度の軍事費の増加六億マルク、この軍事費は一九三三年度にも計上されてゐるものであり、これに各種の補助金を加へれば、一九三三—三四年度における工業生産増加の最大部分は、國家經費によつて行はれたといふことが出来る。即ち國家は、工業的生産に對して、その販路を組織しつゝあるのである。ファッシスト的資本主義下において、尙ほ國內販路の増加があり、外國貿易の増進が行はれれば、軍事費の増加に耐え得らるゝのである。この耐え得らるべき期間の間は、勞働者階級・地方並に都市中間階級の狀態並に外國貿易の分析によつて、答へることが出来る。

10

ナチス政權下の勞働者狀態は如何。勞働戦線におけるナチスの勝利は、如何なる意味を有するか。既にブリュウニング内閣時代の失業者増加時代から失業者數の正確な數字並にその増加のテンポを示すべきものに信憑するに足るべきものはないが、パーペン・ライヒャア内閣時代五百萬と計算されてゐた。一九三〇—一九三二年の從業勞働者及び失業者を示せば、次の如くである。(單位一〇〇〇)

年次	疾病保險統計 による從業者	失業者	合計
一九三〇年(月次平均)	一六、五一五	三、〇七六	一九、五九一
一九三一年 同	一四、三三七	四、五二〇	一八、八五七
一九三二年	一二、五一八	五、六〇三	一八、一二一

ナチスの擡頭及びその經濟政策の社會經濟的基礎

六五 (六七五)

一九三〇年の月次平均から一九三二年の月次平均にいたるまでに、失業者は、二五〇萬以上増加してをり、疲病保險統計は、同時期において、約四百萬の従業者減少を示してゐる。故に一九三〇—一九三二年において、約百五十萬の現はれない失業者を増加してゐる。

一九二九年六月の従業労働者数は一八、九〇六千人であり、登録失業者は、一、二六〇千人であり、この外に可成の無登録失業者が存在するものと見なければならぬ。それを合計して、全労働者を約二千一百人とすることが出来る。この數は、一九二九年秋の恐慌からヒットラー把握にいたるまで、大約同一であると見て差支ない。而して、いまドイツ官廳統計と疾病保險統計とを材料として、失業者數の發展を概観すれば、次の如くである。

月 末	従業労働者數	主要給受領者		
		失業保險	恐慌給與	公共無所得者
一九三二年 一月	一一、〇八五	一、八八五	一、五九六	一、八五八
二月	一一、九二八	一、八五二	一、六七四	一、九九四
九月	一二、八三四	六一八	一、二三一	二、五五〇
十二月	一一、九八三	七九二	一、二八一	二、八〇〇
一九三三年 一月	一一、四八七	九五三	一、四一九	二、八六〇
六月	一三、三〇七	四一六	一、三二〇	二、四三〇
十一月	一四、〇二〇	三四五	一、〇五八	一、四三四
				三、七一五

(單位一〇〇〇人)

十二月	一三、二八七	五五四	一、一七五	一、四一〇	四、〇五八
一九三四年 一月	一三、五一八	五四九	一、一六二	一、三一七	三、七七二
三月	一四、六八七	二四九	九一一	九八四	二、七九八
四月	一五、三六二	二一九	八四一	八八四	二、六〇九
五月	一五、五五九	二二二	八二二	八三三	二、五二五
六月	一五、五三〇	二六五	八一三	七九七	二、四八二
七月	一五、五三三	一〇九〇		七六二	二、四二六

以上の統計によれば、ナチス政権の下においては、労働従業者は増加し、失業者は約半數に減少したやうである。しかし、この統計は眞實を語るものではない。失業者數の半減は、ナチス統計によつて登録せられた失業者の半減に過ぎぬ。疾病保險統計も單なる單式簿記的計算であつて、新職業の獲得のみを數へ、その喪失者を數へてゐない。今日政治上の理由によつて、獄中にあるもの數萬を數へてゐるが、これらも従業者の中に數へられ、失業登録を行へば、その従前の政治的活動の故に、捕縛せらるゝものも多數であるが、かくの如き無登録失業者を計算に入れてゐない。更らに労働振興政策によつて、補助農業労働者として、緊急労働者として、または自治體の給與労働者として、職を得たものを、すべて従業者に數へてゐるし、その數は甚だ多數に登るのである。これらの正規ならざる労働者の増加は、軍事工業と労働振興政策の結果であるが、國內需要を増加すべき就職の増加かといへば、さうではないのである。従業労働者の増加は、少しも支拂貨銀の増加を意味してゐないのである。ブリュウニグ・パー

ベン・シュライヒャア治下において、多分の賃銀切下げを受けた労働者は、ヒットラー治下において一層の切り下げに遭遇してゐる。即ち従來の従業者と新規従業者の合計賃銀高は、従前の従業者の賃銀高に及ばないのである。このことは、ナチス政權の發表した材料によつて立證することが出来る。即ち賃銀税の收入である。失業者の激減した一九三三年の賃銀税收入は一九三二年の收入に及ばないのである。而して、一九三四年の豫定收入の如きも一九三三年度分をそのまま踏襲してゐる。ナチスはこれを辯解して、約三分の二のドイツ労働者は全然賃銀税を支拂はないか、または僅小な税を支拂つてゐるに過ぎないから、賃銀税收入高をもつて、ドイツ労働者の收入及び就業率の標準となすことを得ないとしてゐる。しかし、これは、所謂第三帝國における労働者が賃銀税すら支拂ひ得ない低賃銀によつて、労働しなければならぬ事實そのもの、告白に過ぎないのである。賃銀切下げの事實の明示であり、このことは、ドイツ大工業における就業労働者の増加と支拂賃銀高の減少によつても、明白にすることが出来るのである。一例を軍需工業について挙げれば、クルップの貸借対照表は明かにこのことを示してゐる。一九三二年の賃銀額六千九百五十萬マルク、一九三三年の賃銀額六千七百四十萬マルクであるが、従業員は、約八千名を増加してゐる。鑛山業においても事態は同じである。ヘンシュにおいては、一九三二年の賃銀額四千三百六十萬マルク、一九三三年の賃銀額は三千八百九十萬マルクに減少してゐるにも拘らず、従業員は千三百名の増加である。ブリュニング・パーベン・シュライヒャア時代に既に多くの賃銀切下げを受けた労働者は、第三帝國において一層の賃銀切下げに遇つてゐる。この事實は、ナチスの指導者も認めるところである。ゲベルスは一九三四年四月十

三日の演説で、これに關説せざるを得なかつたのである。

ドイツ労働者は、單に賃銀切下げによつて、その状態が悪化せらるゝ計りでなく、物價の騰貴によつて、尙ほ實質賃銀の切下げを餘儀なくせられてゐるし、労働者の獲得した協定賃銀率はそのままとせられてゐるが、尙ほ自由契約による解約は承認せられてゐる。かくの如き二重三重の方法によつて、ドイツ労働者は、その奴隸化の道を進んでゐる。

一

中間階級においても、労働者階級における状態と異ならぬのである。勤人層においては、賃銀が増加してゐないやうに、その俸給が増加してゐない。このことはクルップ、ジーマンス、イー・ゲー染料等の例によつて明かである。こゝにおいても、従來の事務員と新規事務員の俸給の合計が、従來の事務員俸給の全體よりも少額である。このことは、俸給切下げの事實を示してゐる。第三帝國即ち身分國家・協同國家においては、經營事務員は専門家として、特別の身分が興へられ、その誇りが回復せられる筈であつた。しかし、それは、俸給生活者の夢の戲畫化に過ぎなかつたのである。こゝに俸給生活者のナチスに對する幻滅の悲哀がある。

獨立都市中間階級の狀態も改善されてゐない。ナチスはこの層の反資本主義的感情を満足せしめる政策を探つてゐない。即ち金融資本に對する闘争は第三帝國においては、最早問題ではない。獨占資本・金融資本に對する闘争は單なる百貨店・消費組合・ユダヤ人中間階級商人に對する闘争となつて現はれてゐるに過ぎぬ。百貨店並に消費組

合の販路は、減退し、ユダヤ人中間階級商人は滅亡せしめられた。しかしながら、これをもつて喜ぶには足りないのである。第三帝國における都市獨立中間階級の活動範圍は、ユダヤ人迫害以外に増大してゐない。租税は元の如く高い、資本利子は低下しない。生産の擴大は、主として軍需品であるので、小賣商人の關係するところではない。すべての方面において、小賣商人の販路は、百貨店並に消費組合販路の減少にも拘らず、減少してゐるのである。指數は次の如く現はれてゐる。

年次	小賣全體の販路			百貨店 大商店		ドイツ消費組合大購買會社販路
	全體	食料品 享樂品	衣服	住宅用品	販路	
一九三二年月次平均	六二・六	七〇・八	五五・一	五七・〇	八二・三	八〇・七
一九二八年	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九三三年 同	五九・七	六七・三	五三・九	五五・一	六七・〇	六九・八
						二八、三一、三二、三三、三二、三八

一九三四年においては、小賣販路は多少増加した。しかしこれは小賣商にとつて、喜ぶべきことではない。需要の増加は、大衆の購買力の増進の結果ではなくして、インフラチオン恐怖の買込みであり、原料不足見越の買入れである。而して、小商工業者は、その販賣商品を同一價格をもつて、買入れ得ないことを恐れてゐる。都市中間階級の窮乏を増進する要素は外にもある。農業保護政策、殊にそのモラトリアムは特に都市中間階級に對して重壓を與へた。何となれば、彼等は多少の程度において、農村に對する債權だからである。こゝにおいても、彼等のナチ

スの政策に對する失望がある。これらの中間階級は、ナチスの反資本主義主張とボルンシェヴィズムに對する恐怖とから、ナチスを支持したものであつて、ナチスに對する深い信頼を持つてゐたものではなかつたのである。ナチスに對する彼等の信頼の崩壊は急テンボをもつて進んでゐる。

農民階級の狀態は如何。農業恐慌に對して何を爲したか。ドイツ農民の窮乏化を打開すべき道は三つある。

一 農民の生産物に對する都市住民の購買力を高めるために、穀物關稅を低下し、大土地所有を打破し、パン價の引き下げを行ふこと。

二 舊債務を一掃すべきインフラチオン。

三 工業恐慌の克服・都市大衆の所得の増加。これによつて、農民の生産物に對して高價格を支拂ひ得る。

この三つの政策に對して、今日にいたるまでヒットラー政權は何ごともなしてゐない。殊にその關稅政策においては、穀物輸入税の極端な引き上げによつて穀價を維持してゐる。この政策は既に指摘したやうに主としてユンカアの利益を増進するものである。大土地所有者は穀物を、小農は家畜生産品を主とするが故に、かゝる政策は小農の負擔において、ユンカアの利益を増進するに過ぎないものである。而して、ユンカアと小農との相對立する二つの階級に對して、兩者の利益をともに増進する政策を行ふことは出来ないものである。インフラチオンもまたユンカアの喜ばないところであり、ナチスの今日にいたるまで實行してゐないところである。

國內經濟において、種々の困難を持つてゐるナチス政権下のドイツは、その外國貿易においても、また困難を持つてゐる。一九三〇年から一九三三年に亘つて輸出超過を續けて來たドイツ外國貿易は、一九三四年の前半期間において、既に二億千六百萬マルクの入超を示してゐる。これは、次の如き理由によるものである。

- 一 ポンド、ドル、圓の下落はドイツ輸出工業の地位を悪化した。
- 二 對ロシア輸出の顯著なる減退。ロシアの輸入は總體として減少してゐるし、ロシアはいまやドイツの競争國として現はれてゐる。
- 三 ヒットラー政権出現以後におけるドイツ商品に對してボイコットが行はれてゐる。
- 四 世界市場における價格形成の状態の影響である。世界經濟の衰退は、現在ドイツの貿易に大なる關係を持たぬか、世界經濟の多少の改善が、原料の昂騰となつて、ドイツ外國貿易に影響するからである。一九三一年における輸出超過は、原料安に對して、ドイツ輸出商品高によつて起つたのである。かくて、ナチスによる新戦争への準備は、ドイツ外國貿易に對して二重の意味で悪影響を及ぼしてゐる。
- 五 ナチスは、戦争準備として、穀物の自國生産の政策を取つてゐる。従つて、これまでドイツに穀物を供給して、その工業生産品を輸入してゐた諸國に對する貿易は沈滞せざるを得ない。
- 六 戦争準備のために、一方においては軍備の擴張があり、他方に原料及び生活必需品の貯蔵がある。このため

に原料輸入は増大しなければならぬ。一九三三年における出超は、一九三二年の三分二を減退してゐる同時に工業生産局の輸出は、四十四億八千六百萬マルクから三十七億八千七百萬マルクに減退し、原料の輸入は一九三二・三三・三四年と激増を續けてゐる。この原料輸入の増大は、外國貿易勘定を悪化せしめた。ドイツは北米合衆國・英國・フランスと異つて、對外債權を有せず、國內に充分な金準備がある譯ではない。これらの諸國が債權者國家であるのに對して、ドイツは債務者國家である。

對外負債に對する利拂をなす限りにおいて、ライヒス・バンクの金並に爲替準備は減退して行く。一九三一年六月、ドイツ資本主義は、外國資本の引き上げに對して、一のモラトリアムを要求して、これを實施した。一九三三年の夏にいたるまで、外國私人資本に對して利拂を行つた。一九三二年の出超がこの利拂に相應してゐる額であつたからである。輸出の減退とともに、ライヒス・バンクの金並に爲替準備は減退した。(單位 百萬マルク)

一九三三年 三月三十一日

五月三十一日

六月十六日

八三六

四九九

三四九

利拂を繼續すれば、ライヒス・バンクの金庫中には一錢の金並に爲替準備金もなくなるであらう。故に一九三三年六月には、ライヒス・バンク總裁シャハトは、次のやうに聲明したのである。利拂は原則として實行すること、しかも、ライヒス・バンクの金並に爲替準備金及び輸出状態が不利なる場合、全利拂が不可能な場合には、最高半額の利拂をなし、爾餘は特別金庫によつて、債權者の處分に任すことである。かくの如く利拂の制限もドイツの支

拂勘定の狀態を改善しなかつたのである。ライヒス・バンクの金並に爲替準備金は、極少額しか増加しなかつた。一九三三年六月に三億四千九百萬マルクであつた準備金は同年末に五億に達さなかつた。かくて、シャハトは、五〇%の利拂を一九三四年の前半期中、三〇%に引下げの聲明をなさざるを得なかつた。三〇%の利拂は、準備金を多少増加せしめる効果を持つたが、一九三四年初めの顯著な入超のために漸次減少するに至つた。

一九三四年 一月三十一日	三八三百萬マルク
二月二十八日	三四〇
三月三十一日	二四五
五月十五日	一六六
六月十五日	一〇〇

かくて三〇%の利拂を八週間續ければ、ライヒス・バンクは一文の準備金を持たざるに至るであらう。故に六月半頃ライヒス・バンクは七月一日から十二月三十一日までの金支拂を停止してしまつた。しかし、この命令は、對外的のものであるので、そこに、幾多の困難が存するのである。ドイツは、ファッシスト的政權下にあつても、世界資本主義の圏外に立つことは出来ぬ。ドイツは原料を要する。纖維工業のための原料・重工業の原料・戦争準備のための原料を必要とする。而して、原料供給國は、ドイツに對する資本供給國ではない。従つて、資本供給國に對する利拂のみを實行せずして、原料を輸入することは、他國の勘定において、原料を購入するに等しいものであつ

て、資本供給國の決して許容しないところである。而して、これは、ドイツの軍備を、資本供給國の費用において、爲さんとするものであつて、他國の決して等閑に附し得ないところである。

かくの如く、ナチス政權下のドイツは、内外の矛盾を持つてゐる。而して、この内外の矛盾はともに、尖鋭化する傾向がある。内的矛盾を解決するためには、從來利益を與へて來た資本家層の一部を犠牲に供するか、インフラチオンを實行するかになければならぬ。ナチスは現在のところ、その何れをも實行することを得ない立場にある。これと同時に、労働者階級及び中間階級の狀態の悪化は、内的矛盾を擴大するものであつて、既に、これに對する不平は國內到るところに發見された。殊に、一九三四年六月三十日のレーム以下の銃殺は、S・Aにおける不平分子の掃蕩であり、第二革命への企圖の壓殺ではあるが、この銃殺事件はとりも直さず、ナチス政權の大衆的基礎の部分的喪失を意味するのである。

かくの如き國內的矛盾の強化は、ファッシスト政權下における必然的現象であるが、ファッシスト政權は、この社會的對立に對する注意の轉換を對外政策の轉換によつて行ふ場合が多々ある。再軍備宣言の如きは、事實上の軍備の確認要求であるとともに、對外政策に對する國民の注意の轉換である。かくの如き心理的要因は、ドイツ及びドイツを環る諸國における物質的基礎とともに、戦争への道を急速に築いてゐるのである。ナチス・ドイツは戦争への道であるとは、かゝる點から容易に論斷することが出来る。

附記 フリッツ・シュテルンベルヒの著書には、尙ほ世界經濟及び世界政治の狀態と、プロレタリアートの再組織化の問題

ナチスの擡頭及びその經濟政策の社會經濟的基礎

を論じてゐるのであるが、あまりに長編となることを恐れて、割愛した。しかし、これまで紹介した部分においても、吾々は、シュテルンベルヒの著述の最も特徴的なものを見ることが出来るのである。念のために書いて置くが、この文章には筆者の意見は少しも混合されてゐない。

一九三五・四・一六 稿了

リカード直後に於ける其の分配理論 に對する英國經濟學者の修正意見

高橋 誠一郎

デヴィッド・リカードの『經濟原論』が出版せられた一千八百十七年から、ジョン・スチュアート・ミルの『經濟原論』が現れた一千八百四十八年に至る英國經濟學史上の三十年間は、大體に於いて、新原理の發見よりも、寧ろ先人の所説を祖述するを以つて其の任務と爲せる第二流の經濟學者によつて占領せられた時代と稱せられてゐる。(昭和四年版拙著『經濟學史』二二三頁参照)。洵に此の期間を通じて、リカードの理論は長く經濟思想界に君臨して居つた。而も、吾人は此の時代に於いて、彼れの學説の或るものが、一方に於いては、此の國の非資本主義者並びに社會主義者に對して眞に有效なるインスピレーションを與ふると共に、他方に於いては、是れ等のものゝ修正を主張する専門經濟學者を出しつゝあつたことを記憶しなければならぬ。吾人は曩きにリカード學徒の價値學説に